

建設コンサルタンツ協会

全測連、全地連と共に国交大臣と公見

建設コンサルタンツ協会(田中誠会長)は11月26日、国土交通省を訪れ金子恭之国交大臣と会合した。金子大臣は「業務量の安定的確保、全国地質調査業務の確保、国土強靱化の推進、令和7年度補正予算の大幅確保、令和8年度公共事業当初予算の大幅確保、設計業務委託等技術者単価の更なる引き上げ、年度を跨ぐ建設コンサルタンツ業務等におけるスライド条項の試行導入、低入札価格調査基準価格の引き上げと予定価格の上限拘束の撤廃の5点を説明した。



要望書を金子大臣に手渡す大本会長(中央)

7月に初当選した見坂茂範参議院議員も同行し、コンサル業務の現状を説明した。金子大臣と会談した大本会長らは、①第1次国土強靱化実施中期計画に基づく国土強靱



会談中

金子大臣は「老朽インフラの補修、頻発する災害への対応など、コンサルが果たす役割はますます重要になっている。人手不足や資材高騰などの現状、安心して働ける環境が大切なことも理解している。まずスライド条項の試行導入は行っている」と述べた。

建設コンサルタンツ協会(福岡知久支部長)は11月29日、謎解きウォーク大会を開催した。上野(始)・浅草(終)の指定地域を地図に従い「謎の対象物」の

写真を手掛かりに、その正体を探し出しそれぞれの指定問題を解く街歩きゲーム。12社63人が参加し、11グループを作り、1位はエイト日本技術開発十代田コンサルタンツと大日本タイヤコンサルタンツのチーム。

1日目は、第10回自動車・サステナブルカンファレンス、第24回3D・VRシミュレーションコンテストを開催、VRシミュレーションやシステムが発表され、デジタルツインやデジタル田園都市構想でのユースケースが紹介された。2日は、マサチューセッツ工科大学建築学部のミホ・マゼレウ氏の防災デザインをテーマとした特別講演が行われた。3日目は、最先端表現技術利用推進協会による第9回羽倉賞の発表と表彰、第18回国際VRシンポジウムが行われ、また芝浦工業大学名誉教授の守田優氏による浸水氾濫・洪水リスク評価についての特別講演も行われた。

エンジニアの心を絵で次世代に伝える図鑑「シビルエンジニアの図鑑」Infrastructure for the Next Generation(東京大学名誉教授・吉川弘道著)を刊行。社会インフラ施設・構造物を対象とし、精選した図表・イラスト・画像・ポンチ絵を5つのSessionと16の充実したコラムで解説。迫力あるビジュアルアーカイブ。

ある朝、広島は独立のために舟を出し、錦川の遊覧へと連れ出した。「大川には橋がないので身を潜めるように暮らして、渡るときは、みな舟を用いておる」幅のある錦川は舟から見れば湖のよう。そこを米俵や炭、名産の紙を載せた渡し舟が行き交い、「気がつけば」「次の舟着くぞ!」と人の声も水の上を飛び交っている。その賑わいを遠くから眺めていた独立。その頬を、一筋の涙が伝った。「! いかげされた」「……失礼。ふと故郷を思い出してな」

錦雲燭日

徳永咲良 著

【15故郷】

「それは、明国の」「独立は静かに領いた。」「拙僧は乱で国を失い、祖国では、湖のほとりで身を潜めるように暮らして、おりました。この水景に、今はなき故郷を重ねてしまったのです」

「……わしも見てみたか、たものじゃ。独立殿の故郷を」

「独立は目を伏せて微笑す。取り寄せましよう」

「その時だった。」「ボチャン!」

二人のすぐ後ろで、音とともに水飛沫が跳ね上がった。

フォーラムエイト 第19回デザインフェスティバルを開催



フォーラムエイト(伊藤社長)は11月19日、品川区の品川ライオンフェスティバル2025を開催した。3日間で会場450人、オンラインでは1300人を超える来場者があった。伊藤社長は初日の開催の挨拶で、3日間のフェスティバルの概要を説明した。

するとともに、同社の近況について、「先月10月から40期目に入ったが、5年連続の売り上げ最高額を報告できるのも、ユザーの皆様はじめ関係各位の日頃からのご愛顧によるもの」と謝意を述べた。また関西万博への出展での盛況ぶりを説

明、さらに11月6日〜9日に行われたフォーラムエイト・ラリースジャパン2025について、会場、沿道を含め53万人を超える来場者で賑わい、成功裡に幕を閉じたことを報告した。19回目の同フェスティバルは、会場×ハイブリッドで行い、メタバニアF8VPSを活用したメタバース体験を実施している。

また、第10回自動車・サステナブルカンファレンス、第24回3D・VRシミュレーションコンテストを開催、VRシミュレーションやシステムが発表され、デジタルツインやデジタル田園都市構想でのユースケースが紹介された。2日は、マサチューセッツ工科大学建築学部のミホ・マゼレウ氏の防災デザインをテーマとした特別講演が行われた。3日目は、最先端表現技術利用推進協会による第9回羽倉賞の発表と表彰、第18回国際VRシンポジウムが行われ、また芝浦工業大学名誉教授の守田優氏による浸水氾濫・洪水リスク評価についての特別講演も行われた。

エンジニアの心を絵で次世代に伝える図鑑「シビルエンジニアの図鑑」Infrastructure for the Next Generation(東京大学名誉教授・吉川弘道著)を刊行。社会インフラ施設・構造物を対象とし、精選した図表・イラスト・画像・ポンチ絵を5つのSessionと16の充実したコラムで解説。迫力あるビジュアルアーカイブ。

「……わしも見てみたか、たものじゃ。独立殿の故郷を」

「独立は目を伏せて微笑す。取り寄せましよう」

「その時だった。」「ボチャン!」

二人のすぐ後ろで、音とともに水飛沫が跳ね上がった。

日本橋梁メンテナンス協会 25年度技術講習会を開催



え、橋の個性などを見ることの重要性、人手不足にも対応するためにも保全分野へのIT導入による効率化が不可欠と強調した。

また構造物の点検目的を明確に、的確に診断・報告することも重要であり、そのための最新の点検技術を解説、様々な橋梁の損傷、劣化の事例を紹介し、劣化原因やその対策を講義した。

板垣正幸代表理事は、SMジョイント工法の現状と今後の展望について講演。首都高速での試験施工などを報告した。また法定点検2巡目を終えた24年度末時点での判定区分Ⅲ・Ⅳの橋は5万橋を超え、その4割は未着手であるという現状

（国交省資料）から「地方自治体の公共工事を中心にSMジョイントは安価・高性能・簡易施工・環境配慮といった点で非常に高い評価を受けている。未着手橋梁が多い」ということはビジネスチャンスととらえることが出来る」と語った。

そのほかオリテック21代表取締役の櫻岡賢拓氏から床版防水工に使用する「橋梁用排水パイプ」の「橋梁用排水パイプ」の心管(いしんかん)について、北日本水研の開発営業部・中村博之氏は「近年の床版防水工法の動向」、アイゾールテクニクス専務取締役の田村悟士氏は「HI-SPEC CIP工法」について、それぞれ講演した。

講習会終了後には懇親会が行われた。開始前、金子恭之国土交通大臣が急遽訪れ、「適切なインフラの維持管理に邁進してほしい」と激励する場面もあった。

会が行われた。開始前、金子恭之国土交通大臣が急遽訪れ、「適切なインフラの維持管理に邁進してほしい」と激励する場面もあった。

激励する金子国交大臣(右は板垣代表理事)

京奈和道、876億円増額

物価高と地質変更が要因



近畿地方整備局と西日本高速道路関西支社は、11月20日に奈良県京奈和自動車道連絡調整会議を開き、大和北道路と大和御所道路の事業進捗状況と全体事業費の見直しについて情報を共有した。

京奈和自動車道(大和北道路・大和御所道路)の全体事業費は、当初計画から約876億円増額される見込みだ。この増額は今年後、近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮

られる予定だ。増額の要因は、物価上昇に伴う資機材費と労務費の増額(510億円)と、詳細設計で判明した地質条件の変更(324億円)だ。地質条件の変更により、地盤改良の追加や橋梁の杭長延長が必要となった。また、埋蔵文化財調査の追加による増額も約57億円生じている。これらの増額に対し、橋梁下部工の一体化や架設工法の見直しなどで約15億円のコスト削減が図られた。

現在、大和御所道路では改良工事などに着手しており、(仮称)橿原JCT(大阪方面接続ランプ)の2026年春開通に向けて事業が推進されている。

奈良県は、京奈和自動車道が経済活性化や防災などに期待しており、早期の整備効果発現のため、更なる迅速化を図る

6品目の稼働率は前月から微増

軽仮設リース業8月度

軽仮設リース業の8月度の動態調査は以下の通り。主要6品目の稼働率は65.2%(前月64.3%)、前月比で0.9ポイント増。前年同月(66.4%)との比較では1.2ポイント減が図られた。

現在、大和御所道路では改良工事などに着手しており、(仮称)橿原JCT(大阪方面接続ランプ)の2026年春開通に向けて事業が推進されている。

軽仮設リース業の8月度の動態調査は以下の通り。主要6品目の稼働率は65.2%(前月64.3%)、前月比で0.9ポイント増。前年同月(66.4%)との比較では1.2ポイント減が図られた。

軽仮設リース業の8月度の動態調査は以下の通り。主要6品目の稼働率は65.2%(前月64.3%)、前月比で0.9ポイント増。前年同月(66.4%)との比較では1.2ポイント減が図られた。

軽仮設リース業の8月度の動態調査は以下の通り。主要6品目の稼働率は65.2%(前月64.3%)、前月比で0.9ポイント増。前年同月(66.4%)との比較では1.2ポイント減が図られた。

次号は新年特集号

次号の2026年1月1日号は12月21日号との合併号で新年特集号として発行します。巻頭の新技术特集では、ものつくり大学・大垣賀津雄教授に、橋梁・構造技術における新技术の展開についてお話をいただきました。『EXPO NOTO土木技術新時代』と題し、新技术の活用で能登半島地震からの復興をアピールする能登復興事務所の取り組みなど紹介します。また、NEXCO西日本・芝村善治社長をはじめ、発注者幹部らのインタビュー記事も複数掲載しますので、ぜひご期待ください。



勝目(かじめ)交差点から東を望む

京奈和自動車道(大和北道路・大和御所道路)の全体事業費は、当初計画から約876億円増額される見込みだ。この増額は今年後、近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮

られる予定だ。増額の要因は、物価上昇に伴う資機材費と労務費の増額(510億円)と、詳細設計で判明した地質条件の変更(324億円)だ。地質条件の変更により、地盤改良の追加や橋梁の杭長延長が必要となった。また、埋蔵文化財調査の追加による増額も約57億円生じている。これらの増額に対し、橋梁下部工の一体化や架設工法の見直しなどで約15億円のコスト削減が図られた。

現在、大和御所道路では改良工事などに着手しており、(仮称)橿原JCT(大阪方面接続ランプ)の2026年春開通に向けて事業が推進されている。

軽仮設リース業の8月度の動態調査は以下の通り。主要6品目の稼働率は65.2%(前月64.3%)、前月比で0.9ポイント増。前年同月(66.4%)との比較では1.2ポイント減が図られた。

軽仮設リース業の8月度の動態調査は以下の通り。主要6品目の稼働率は65.2%(前月64.3%)、前月比で0.9ポイント増。前年同月(66.4%)との比較では1.2ポイント減が図られた。